

週末の天気の見通しに関する説明

この資料は、8月12日09時時点の予想に基づいて作成したものですので、最新の気象情報は、気象台ホームページから確認ください。

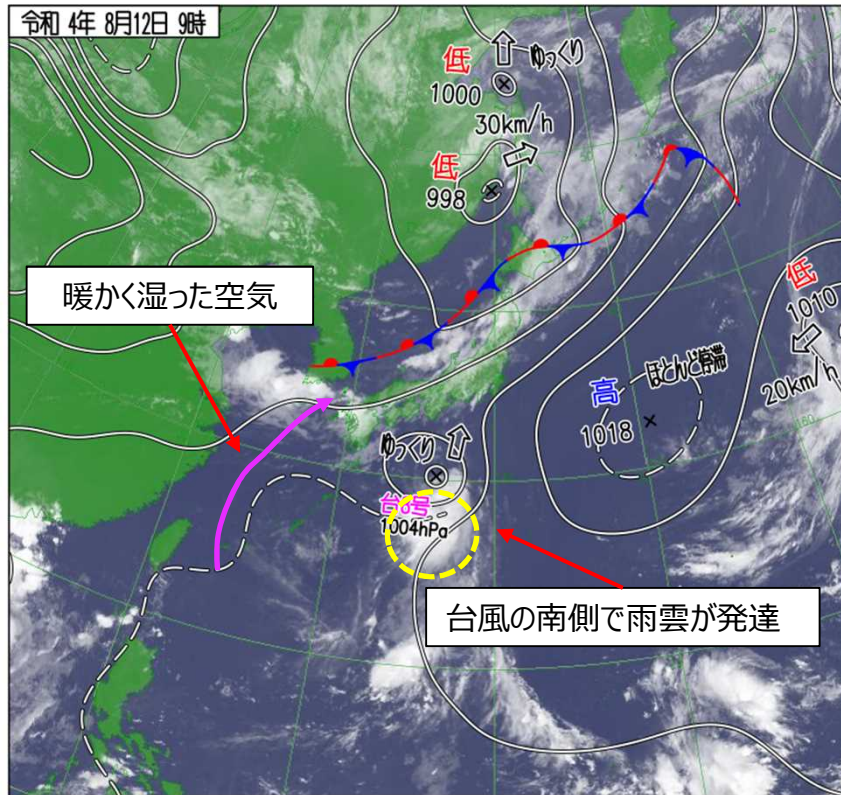
大阪管区気象台気象防災部予報課

台風第8号の進路と影響のポイント

- ①台風第8号は、勢力を維持したまま北に進み、13日には進路を東に変え、近畿地方から遠ざかる見込み。
- ②近畿地方の太平洋側では、13日にかけて、台風の接近に伴って風がやや強く、うねりを伴った高波に注意。
- ③近畿地方では、14日頃にかけて日本海の前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、日中の昇温の影響も加わって大気の下不安定な状態が続く見込み。局地的に雷を伴った激しい雨が降り大雨となるおそれがある。落雷や突風にも注意。

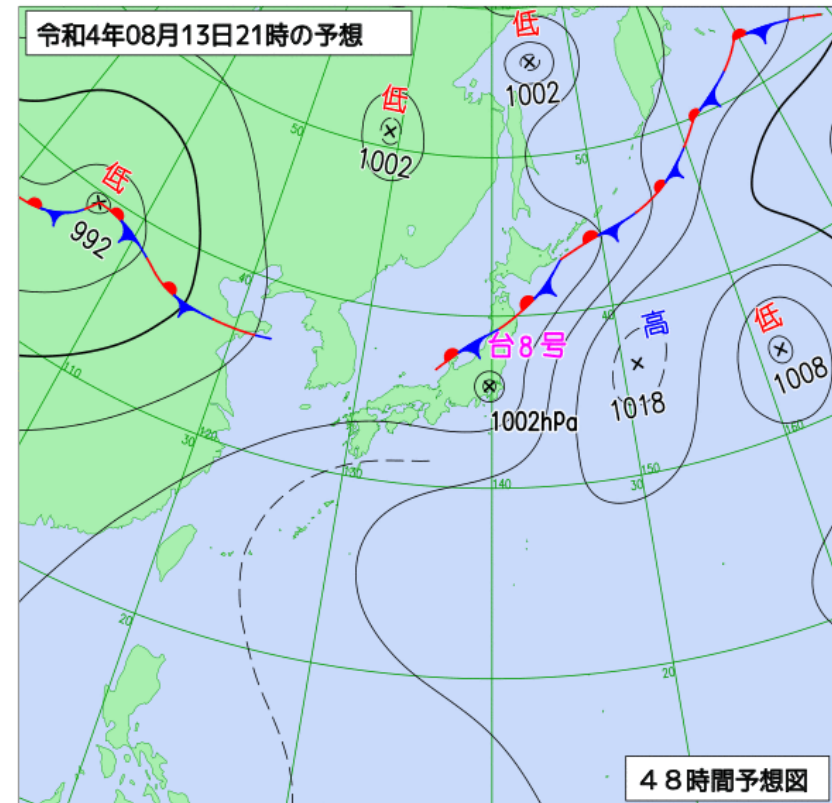
地上天気図と気象衛星赤外画像

令和4年8月12日09時



- 台風南側を中心に発達した雲域がある。また、日本海の前線に向かって湿った空気が流れ込んでいる。

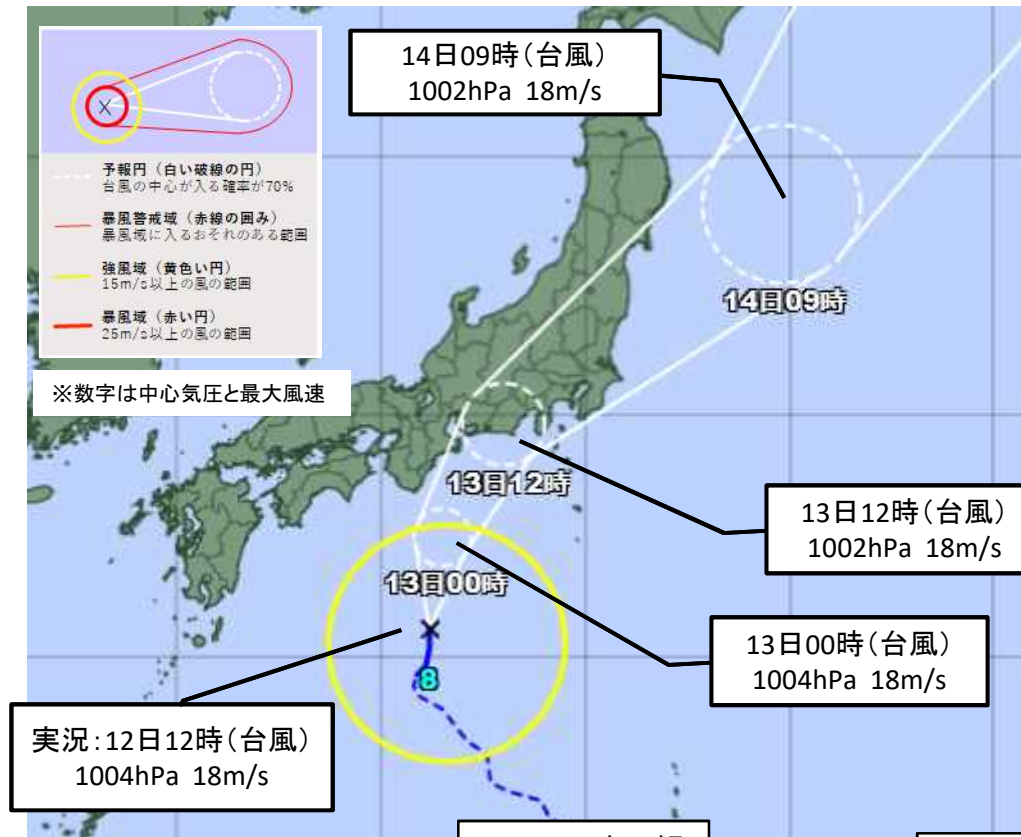
令和4年8月13日21時の予想



- 台風第8号は、勢力を維持したまま、紀伊半島沖を北上、次第に進路を東に変え13日21時には関東地方に進む見込み。

令和4年台風第8号の進路予想

12日12時現在



12日12時実況	
種別	台風
大きさ	-
強さ	-
存在地域	日本の南
中心位置	北緯30度35分 (30.6度) 東経136度10分 (136.2度)
進行方向、速さ	北 ゆっくり
中心気圧	1004 hPa
中心付近の最大風速	18 m/s (35 kt)
最大瞬間風速	25 m/s (50 kt)
15m/s以上の強風域	南東側 330 km (180 NM) 北西側 220 km (120 NM)

13日00時予報	
種別	台風
強さ	-
存在地域	潮岬の南南東約130km
予報円の中心	北緯32度30分 (32.5度) 東経136度30分 (136.5度)
進行方向、速さ	北 20 km/h (10 kt)
中心気圧	1004 hPa
中心付近の最大風速	18 m/s (35 kt)
最大瞬間風速	25 m/s (50 kt)
予報円の半径	65 km (35 NM)

14日09時予報	
種別	台風
強さ	-
存在地域	宮古市の東約250km
予報円の中心	北緯39度05分 (39.1度) 東経144度50分 (144.8度)
進行方向、速さ	北東 35 km/h (19 kt)
中心気圧	1002 hPa
中心付近の最大風速	18 m/s (35 kt)
最大瞬間風速	25 m/s (50 kt)
予報円の半径	165 km (90 NM)

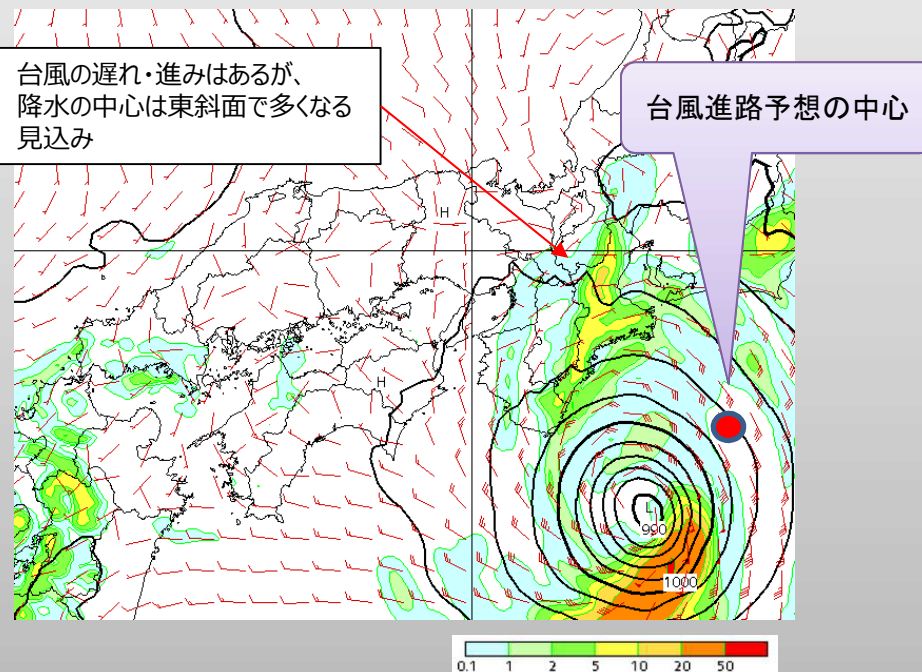
13日12時予報	
種別	台風
強さ	-
存在地域	静岡市の西南西約40km
予報円の中心	北緯34度50分 (34.8度) 東経138度00分 (138.0度)
進行方向、速さ	北北東 25 km/h (13 kt)
中心気圧	1002 hPa
中心付近の最大風速	18 m/s (35 kt)
最大瞬間風速	25 m/s (50 kt)
予報円の半径	95 km (50 NM)

防災事項（8月12日から14日にかけて）（12日11時時現在）

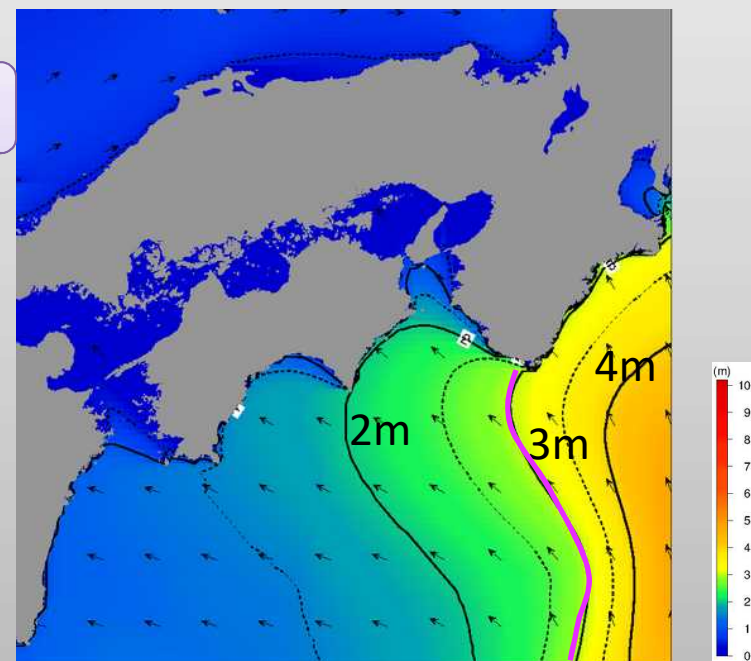
- 台風が予報円の中心を通った場合、13日明け方から朝にかけ近畿地方に最も近づく見込み。
- 近畿地方では、14日にかけて、大気的不安定な状態が続き、激しい雨の降るおそれがあり、**大雨に注意**。台風による影響を受けやすい和歌山県南部、奈良県南部、滋賀県では、南～東寄りの風が吹き付け、13日にかけての総雨量が多くなる所がある。
- 近畿南部では、13日昼前にかけてうねりを伴った高波に注意。

この図は数値予報の計算結果をそのまま画像化したものであり、実際に発表する天気予報や台風予報等とは異なります。

MSM1時間降水量・風・気圧13日06時の予想



波浪・海上風 13日00時の予想



今後の気象状況

12日 11時現在

【近畿地方への影響】

		12日					13日								14日			
		9-12時	12-15時	15-18時	18-21時	21-24時	0-3時	3-6時	6-9時	9-12時	12-15時	15-18時	18-21時	21-24時	0-6時	6-12時	12-18時	18-24時
		昼前	昼過ぎ	夕方	夜の はじめ頃	夜遅く	未明	明け方	朝	昼前	昼過ぎ	夕方	夜の はじめ頃	夜遅く				
台風最接近								最接近	最接近									
大雨・洪水 (ミリ)	近畿北部	10	30	30	30	15	10	10	10	10	30	30	30	20			激しい雨 の降る おそれ	激しい雨 の降る おそれ
	近畿中部	20	40	40	40	20	20	15	15	15	30	30	30	30			激しい雨 の降る おそれ	激しい雨 の降る おそれ
	近畿南部	1	30	30	30	15	10	5	10	5	30	30	30	30			激しい雨 の降る おそれ	激しい雨 の降る おそれ
大雨(土砂)	近畿北部																	
	近畿中部																	
	近畿南部																	
雷	近畿北部	注	注	注	注	注					注	注	注	注	注	注	注	注
	近畿中部	注	注	注	注	注	注	注	注	注	注	注	注	注	注	注	注	注
	近畿南部	注	注	注	注	注	注	注	注	注	注	注	注	注	注	注	注	注
暴風 (メートル)	近畿北部陸上	5↑	5↑	4↑	4↑	4↑	4↑	4↑	3↗	3↗	3↗	3↑	3↑	3↑				
	近畿北部海上	8↑	8↑	8↑	8↑	8↑	8↑	8↑	6↗	6↗	6↗	6↗	6↗	6↗				
	近畿中部陸上	6↖	6↖	6↖	5↖	6↓	10↓	10↓	10↓	10↓	8↖	8↖	8↖	8↖				
	近畿中部海上	8↑	8↑	8↑	7↖	7↖	6↖	8↖	8↖	8↖	10↖	10↖	10↖	10↖				
	近畿南部陸上	5↖	5↖	6↖	10↖	10↖	10↓	10↓	10↖	10↖	10↖	10↖	10↖	8↖				
	近畿南部海上	8↖	8↖	10↖	12↖	12↖	12↓	12↓	12↖	12↖	12↖	12↖	12↖	10↖				
波浪 (メートル)	近畿北部	1	1	1	1	1	1	1	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5				
	近畿中部	1.5	1.5	1.5	2	2	2	2	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5				
	近畿南部	3う	3う	3う	3う	3う	3う	3う	3う	3う	2.5	2.5	2.5	2.5				
高潮 (メートル)	近畿北部	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.8								
	近畿中部	0.8	0.4	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	0.9	0.7							
	近畿南部	0.2	0.2	1.3	1.4	1	0.8	1.4	1.4	0.6	0							
【雨】早期注意情報（北部）																		
【雨】早期注意情報（中部）			中	中	中													
【雨】早期注意情報（南部）																		

■ 警報級 ■ 注意報級

・1時間降水量	12日	13日
近畿北部	30ミリ	30ミリ
近畿中部	40ミリ	30ミリ
近畿南部	30ミリ	30ミリ

・24時間降水量 (12日12時～13日12時)	
近畿北部	60ミリ
近畿中部	80ミリ
近畿南部	80ミリ

・24時間降水量 (13日12時～14日12時)	
近畿北部	50-100ミリ
近畿中部	50-100ミリ
近畿南部	50-100ミリ

・風	12日	13日
近畿北部 陸上	5メートル	4メートル
近畿北部 海上	8メートル	8メートル
近畿中部 陸上	6メートル	10メートル
近畿中部 海上	8メートル	10メートル
近畿南部 陸上	10メートル	10メートル
近畿南部 海上	12メートル	12メートル

・波	12日	13日
近畿北部	1メートル	1メートル
近畿中部	2メートル	2メートル
近畿南部	3メートル	3メートル

※ 気象庁ホームページ等で最新の台風情報等を参照ください。

今後の気象状況

12日 11時現在

【大阪府への影響】

		12日					13日							
		9-12時	12-15時	15-18時	18-21時	21-24時	0-3時	3-6時	6-9時	9-12時	12-15時	15-18時	18-21時	21-24時
		昼前	昼過ぎ	夕方	夜の はじめ頃	夜遅く	未明	明け方	朝	昼前	昼過ぎ	夕方	夜の はじめ頃	夜遅く
大雨(浸水) (ミリ)	大阪府	20	40	40	40	20	10	10	10	10	30	30	30	20
雷	大阪府	注	注	注	注	注	注	注	注	注	注	注	注	注
暴風 (メートル)	陸上	5 ⇨	5 ⇨	5 ⇨	4 ⇨	4 ⇨	3 ⇨	3 ⇨	3 ⇨	6 ⇨	8 ⇨	8 ⇨	8 ⇨	8 ⇨
	海上	7 ⇨	7 ⇨	7 ⇨	6 ⇨	6 ⇨	5 ⇨	5 ⇨	5 ⇨	8 ⇨	10 ⇨	10 ⇨	10 ⇨	10 ⇨
波浪 (メートル)	大阪府	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	1	1	1	1

警報級 注意報級

・1時間降水量
大阪府 12日 40ミリ 13日 30ミリ

・24時間降水量（12日12時～13日12時）
大阪府 80ミリ

※気象庁ホームページで最新の気象情報等を参照してください。

今後の大雨等に備えて

- ◆ 近畿南部では13日にかけて、うねりを伴った高波に注意してください。
特にお盆の帰省の時期でもあり、海のレジャー、海水浴等の事故に注意願います。
- ◆ 近畿中部や南部では、台風の影響により、暖かく湿った南寄りの風が吹き付けるため、総雨量が多くなる所があるので注意願います。
- ◆ 14日にかけて、大気の不安定な状態が続き、局地的に大雨となるおそれがあります。浸水害や土砂災害、河川の増水に注意してください。
海や山、川のレジャーでは、雷や雷雨、急な河川の増水にも注意願います。
- ◆ 気象台が発表する最新の台風情報や気象情報、キキクル（危険度分布）を確認し、市町村からの避難に関する情報等に留意してください。
- ◆ 最新の気象情報や交通機関からの情報に留意してください。
東日本では、台風の影響により交通機関が乱れる可能性がありますので、目的地などの情報にも留意してください。

日頃から、大雨による土砂災害・洪水・低い土地の浸水をはじめ、自分のいる場所ではどのような災害が起こりやすいか確認しておいてください。

関連資料の掲載場所

参考資料

今後の予想を含めた最新の情報は、以下からご利用ください。

- 気象警報・注意報（大雨、洪水、暴風（雪）、波浪、高潮、大雪などによる災害への警戒・注意を呼びかける）
<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=warning>
- キキクル(危険度分布)（どこで土砂災害、浸水害、洪水害の危険度が高まると予測されているかを地図上で表示）
 - 土砂キキクル(危険度分布) <https://www.jma.go.jp/bosai/risk/#elements:land>
 - 浸水キキクル(危険度分布) <https://www.jma.go.jp/bosai/risk/#elements:inund>
 - 洪水キキクル(危険度分布) <https://www.jma.go.jp/bosai/risk/#elements:flood>
- 各地の気象情報（気象概況や大雨の見通し）
<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=information&element=information>
- 台風情報（台風の位置・強さ・速度などの解析・予報、大雨や暴風の見通し）
<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=typhoon>
- 指定河川洪水予報（国や都道府県の管理する主な河川の氾濫の危険度を予測）
<https://www.jma.go.jp/bosai/flood/>
- 土砂災害警戒情報（命に危険が及ぶ土砂災害の発生が切迫したときに厳重な警戒を呼びかける）
<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=warning>
- 最新の気象データ（雨雲の動き（降水・雷・竜巻ナウキャスト）、今後の雨、雨や風の観測データ、衛星画像）
<https://www.jma.go.jp/bosai/nowc/>
<https://www.jma.go.jp/bosai/kaikotan/>
https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/mdrr/pre_rct/index24_rct.html
https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/mdrr/wind_rct/index_mxwsp.html
<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=himawari>
- 14か国語による防災気象情報の提供
<https://www.jma.go.jp/jma/kokusai/multi.html>
- 避難行動判定フロー・避難情報のポイント（内閣府（防災担当））
http://www.bousai.go.jp/oukyu/hinanjouhou/r3_hinanjouhou_guideline/pdf/point.pdf
- 新型コロナウイルス感染症が収束しない中での避難について（内閣府（防災担当）・消防庁）
<http://www.bousai.go.jp/pdf/colonapoint.pdf>



気象庁HPのバナーをご利用ください。



気象庁防災情報
Twitter

@JMA_bousai

気象庁公式の防災情報アカウントを開設しました。台風接近や大雨のおそれがある場合等に、現況や今後の見通し、防災上の留意点、緊急会見の内容等を解説します。

5段階の警戒レベルと防災気象情報

参考資料

気象庁等の情報			市町村の対応	住民が取るべき行動	警戒レベル
キキクル					
大雨 特別警報	災害切迫	氾濫 発生情報	緊急安全確保 ※必ず発令される情報ではない	命の危険 直ちに安全確保！ ・すでに安全な避難ができず、命が危険な状況。いまいる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等する。	5
<警戒レベル4までに必ず避難！>					
土砂災害 警戒情報	高潮 警報	高潮 特別警報	避難指示 第4次防災体制 (災害対策本部設置)	危険な場所から全員避難 ・台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了しておく。	4
※1 大雨警報 洪水警報	高潮警報に 切り替える 可能性が高い 注意報		高齢者等避難 第3次防災体制 (避難指示の発令を判断できる体制)	危険な場所から高齢者等は避難 ・高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難する。	3
大雨警報に 切り替える 可能性が高い 注意報	高潮 注意報		第2次防災体制 (高齢者等避難の発令を判断できる体制)	自らの避難行動を確認 ・ハザードマップ等により、自宅等の災害リスクを再確認するとともに、避難情報の把握手段を再確認するなど。	2
大雨注意報 洪水注意報			第1次防災体制 (連絡要員を配置)		
早期 注意情報 (警報級の 可能性)			・心構えを一段高める ・職員の連絡体制を確認	災害への心構えを高める	1

※1 夜間～翌日早朝に大雨警報(土砂災害)に切り替える可能性が高い注意報は、警戒レベル3（高齢者等避難）に相当します。

「避難情報に関するガイドライン」（内閣府）に基づき
気象庁において作成

暴風による災害への備え

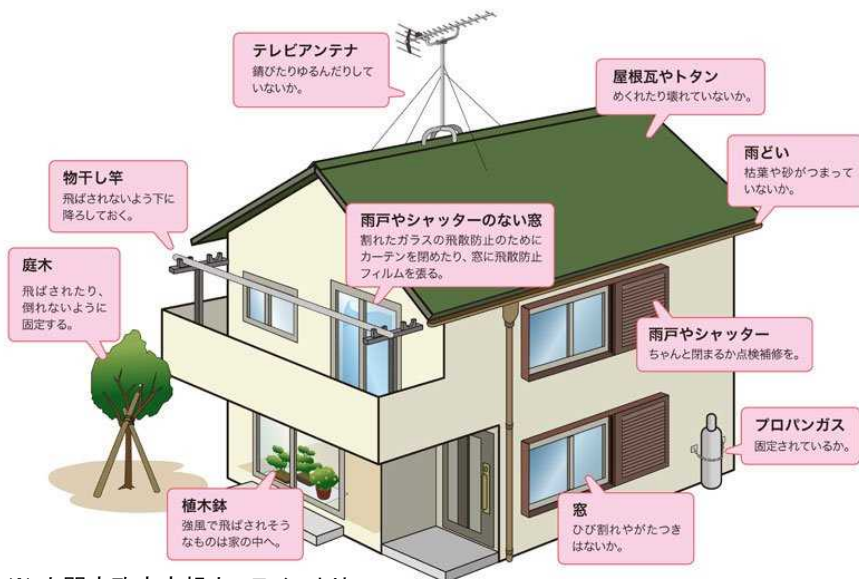
参考資料

- 暴風が実際に吹き始めてからでは、屋外での行動は命に危険が及びます。
- 特に土砂災害や洪水、高潮のおそれがある区域では、風雨が強まる前の早めのタイミングで対応をとることが重要です。
- 風雨が強まるタイミングは、市町村毎に発表される警報・注意報で確認することができます。

〇〇市の警報・注意報（今後の推移）										
XXXX年XX月XX日XX時XX分発表										
〇〇市		0-3	3-6	6-9	12-15	15-18	18-21	21-24	〇〇日	備考・関連する現象
暴風	陸上	3	10	15	20	25	20	13	10	10
	海上	10	12	20	25	35	30	15	10	10

▲ 暴風警報
 ▲ 陸上では昼過ぎから風速20メートル
 ■ 暴風警報の期間
 ■ 強風注意報の期間

《風が強まる前の家の対策》



※ 内閣府政府広報オンラインより。

平均風速 (m/s) およその時速	人への影響 走行中の車	屋外・樹木の様子	建造物	およその 瞬間風速 (m/s)
20~25 ~約90km/h	何かにつかまってい ないと立っていられ ない。飛来物によっ て受傷するおそれ がある。		屋根瓦・屋根葺材が飛散するものがある。固定されていないプレハブ小屋が移動、転倒する。ビニールハウスのフィルム（被覆材）が広範囲に破れる。	30
25~30 ~約110km/h		細い木の幹が折れたり、根の張っていない木が倒れ始める。看板が落下・飛散する。道路標識が傾く。		40
30~35 ~約125km/h			固定の不十分な金属屋根の葺材がめくれる。養生の不十分な仮設足場が崩落する。	
35~40 ~約140km/h	走行中のトラックが横転する。		外装材が広範囲にわたって飛散し、下地材が露出するものがある。	50
40~ 約140km/h~		多くの樹木が倒れる。電柱や街灯で倒れるものがある。ブロック壁で倒壊するものがある。		60
			住家で倒壊するものがある。鉄骨構造物で変形するものがある。	

※ 平均風速は10分間の平均、瞬間風速は3秒間の平均です。

※ 人や物への影響は日本風工学会の「瞬間風速と人や街の様子との関係」を参考に作成しています。

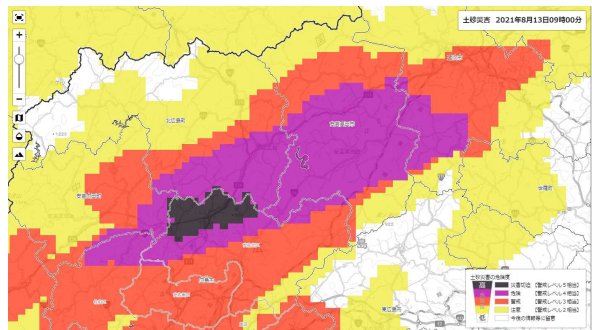
※ 詳細は気象庁ホームページを御確認ください。https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/amekaze/amekaze_index.html

「キキクル（危険度分布）」を活用して早めの避難を

参考資料

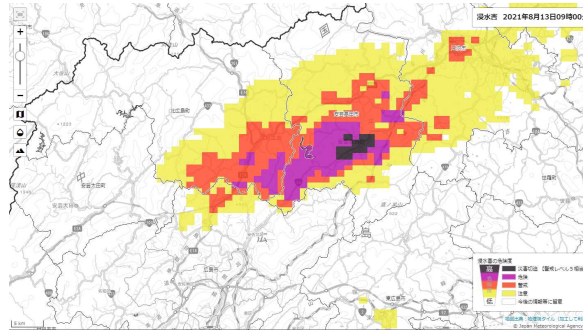
土砂キキクル

大雨警報（土砂災害）の危険度分布



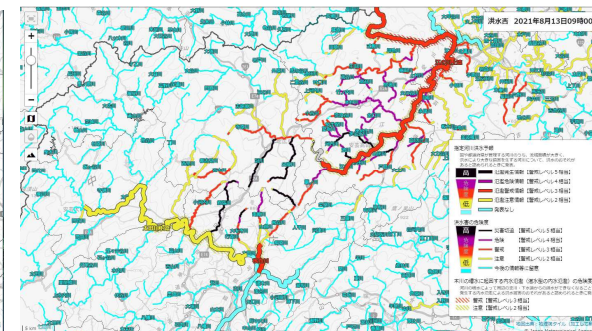
浸水キキクル

大雨警報（浸水害）の危険度分布



洪水キキクル

洪水警報の危険度分布



**「紫」が出現した段階で
速やかに安全な場所に避難する判断を！**

「キキクル」の「**災害切迫（黒）**」は、大雨による災害が**すでに発生**している可能性が高い状況であり、災害が発生する前にいつも出現するとは限りません。このため、「**黒**」を待つことなく、「**紫**」が出現した段階で、速やかに安全な場所に避難することが極めて重要です。

キキクルの危険度の高まりを見逃さないように

参考資料

国土交通省 気象庁 Japan Meteorological Agency

ENGLISH Other Languages 文字サイズ変更 標準 大

気象庁防災情報 Twitter 気象庁 Twitter 気象庁 知識・解説 気象庁 YouTube Google 提供 検索

ホーム 防災情報 各種データ・資料 地域の情報 知識・解説 各種申請・ご案内

コンテンツの閲覧方法について（よくお寄せいただく質問）

防災情報 天気 キキクル（危険度分布） 大雨・台風 地震・火山

被災地域等への支援情報

ここをクリック

または、このバナーをクリック

この雨大丈夫？そんな時
キキクル
大雨・洪水警報の危険度分布

火山登山者向けの
情報提供ページ

津波から身を守るために
津波フラッグ
海岸付近でこの津波フラッグを見たらすぐに避難



風の強さ

参考資料

風の強さと吹き方

(平成12年8月作成)、(平成14年1月一部改正)、(平成19年4月一部改正)、(平成25年3月一部改正)、(平成29年9月一部改正)

風の強さ (予報用語)	平均風速 (m/s)	およその 時速	速さの目安	人への影響	屋外・樹木の様子	走行中の車	建造物	およその 瞬間風速 (m/s)
やや強い風	10以上 15未満	～50km	一般道路 の自動車	風に向かって歩きにくくなる。 傘がさせない。	樹木全体が揺れ始める。 電線が揺れ始める。	道路の吹流しの角度が水平に なり、高速運転中では横風に 流される感覚を受ける。	樋(とい)が揺れ始める。	20
強い風	15以上 20未満	～70km		風に向かって歩けなくなり、 転倒する人も出る。 高所での作業はきわめて危険。	電線が鳴り始める。 看板やトタン板が外れ始め る。	高速運転中では、横風に流さ れる感覚が大きくなる。	屋根瓦・屋根葺材がはがれるもの がある。 雨戸やシャッターが揺れる。	
非常に強い風	20以上 25未満	～90km	高速道路 の自動車	何かにつかまっていけないと 立ってられない。 飛来物によって負傷するおそ れがある。	細い木の幹が折れたり、根 の張っていない木が倒れ始め る。 看板が落下・飛散する。 道路標識が傾く。	通常速度で運転するのが 困難になる。	屋根瓦・屋根葺材が飛散するもの がある。 固定されていないプレハブ小屋が移 動、転倒する。 ビニールハウスのフィルム(被覆材) が広範囲に破れる。	30
	25以上 30未満	～110km					固定の不十分な金属屋根の葺材が めくれる。 養生の不十分な仮設足場が崩落する。	
猛烈な風	30以上 35未満	～125km	特急電車	屋外での行動は極めて危険。	多くの樹木が倒れる。 電柱や街灯で倒れるもの がある。 ブロック壁で倒壊するもの がある。	走行中のトラックが横転する。	外装材が広範囲にわたって飛散し、 下地材が露出するものがある。	40
	35以上 40未満	～140km					住家で倒壊するものがある。 鉄骨構造物で変形するものがある。	
	40以上	140km～						

(注1) 強風によって災害が起こるおそれのあるときは強風注意報を、暴風によって重大な災害が発生するおそれのあるときは暴風警報を、さらに重大な災害が起こるおそれが著しく大きいときは暴風特別警報を発表して警戒や注意を呼びかけます。なお、警報や注意報の基準は地域によって異なります。

(注2) 平均風速は10分間の平均、瞬間風速は3秒間の平均です。風の吹き方は絶えず強弱の変動があり、瞬間風速は平均風速の1.5倍程度になることが多いですが、大気の状態が不安定な場合等は3倍以上になることがあります。

(注3) この表を使用される際は、以下の点にご注意下さい。

1. 風速は地形や周りの建物などに影響されますので、その場所での風速は近くにある観測所の値と大きく異なる場合があります。
2. 風速が同じであっても、対象となる建物、構造物の状態や風の吹き方によって被害が異なる場合があります。この表では、ある風速が観測された際に、通常発生する現象や被害を記述していますので、これより大きな被害が発生したり、逆に小さな被害にとどまる場合もあります。
3. 人や物への影響は日本風工学会の「瞬間風速と人や街の様子との関係」を参考に作成しています。今後、表現など実状と合わなくなった場合には内容を変更することがあります。

雨の強さ

参考資料

雨の強さと降り方

(平成12年8月作成)、(平成14年1月一部改正)、(平成29年3月一部改正)、(平成29年9月一部改正)

1時間雨量 (mm)	予報用語	人の受けるイメージ	人への影響	屋内 (木造住宅を想定)	屋外の様子	車に乗っていて
10以上～ 20未満	やや強い雨	ザーザーと降る	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	雨の音で話し声が良く聞き取れない	地面一面に水たまりができる	
20以上～ 30未満	強い雨	どしゃ降り				ワイパーを速くしても見づらい
30以上～ 50未満	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る	傘をさしていてもぬれる	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく	道路が川のようになる	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる(ハイドロプレーニング現象)
50以上～ 80未満	非常に激しい雨	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)			水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	車の運転は危険
80以上～	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる	傘は全く役に立たなくなる			

(注1) 大雨によって災害が起こるおそれのあるときは大雨注意報や洪水注意報を、重大な災害が起こるおそれのあるときは大雨警報や洪水警報を、さらに重大な災害が起こるおそれが著しく大きいときは大雨特別警報を発表して警戒や注意を呼びかけます。なお、警報や注意報の基準は地域によって異なります。

(注2) 数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を観測・解析したときには記録的短時間大雨情報を発表します。この情報が発表されたときは、お住まいの地域で、土砂災害や浸水害、中小河川の洪水害の発生につながるような猛烈な雨が降っていることを意味しています。なお、情報の基準は地域によって異なります。

台風の大きさと強さ

参考資料

気象庁は台風のおおよその勢力を示す目安として、下表のように風速(10分間平均)をもとに台風の「大きさ」と「強さ」を表現します。「大きさ」は強風域(風速15m/s以上の風が吹いているか、吹く可能性がある範囲)の半径で、「強さ」は最大風速で区分しています。

さらに、風速25m/s以上の風が吹いているか、吹く可能性がある範囲を暴風域と呼びます。

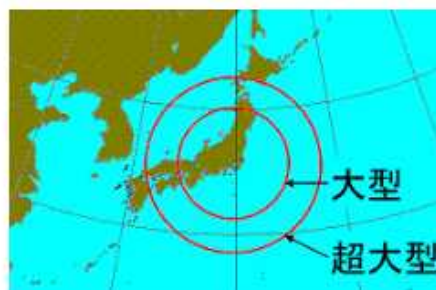
強さの階級分け

階級	最大風速
強い	33m/s(64ノット)以上～44m/s(85ノット)未満
非常に強い	44m/s(85ノット)以上～54m/s(105ノット)未満
猛烈な	54m/s(105ノット)以上

大きさの階級分け

階級	風速15m/s以上の半径
大型(大きい)	500km以上～800km未満
超大型(非常に大きい)	800km以上

大型、超大型の台風それぞれの大きさは、日本列島の大きさと比較すると以下ようになります。



台風に関する情報の中では台風の大きさと強さを組み合わせて、「大型で強い台風」のように呼びます。ただし、強風域の半径が500km未満の場合には大きさを表現せず、最大風速が33m/s未満の場合には強さを表現しません。例えば「強い台風」と発表している場合、その台風は、強風域の半径が500km未満で、中心付近の最大風速は33～43m/sで暴風域を伴っていることを表します。

なお、台風情報では暴風域を円形で示します。この円内は暴風がいつ吹いてもおかしくない範囲です。

高潮の要因

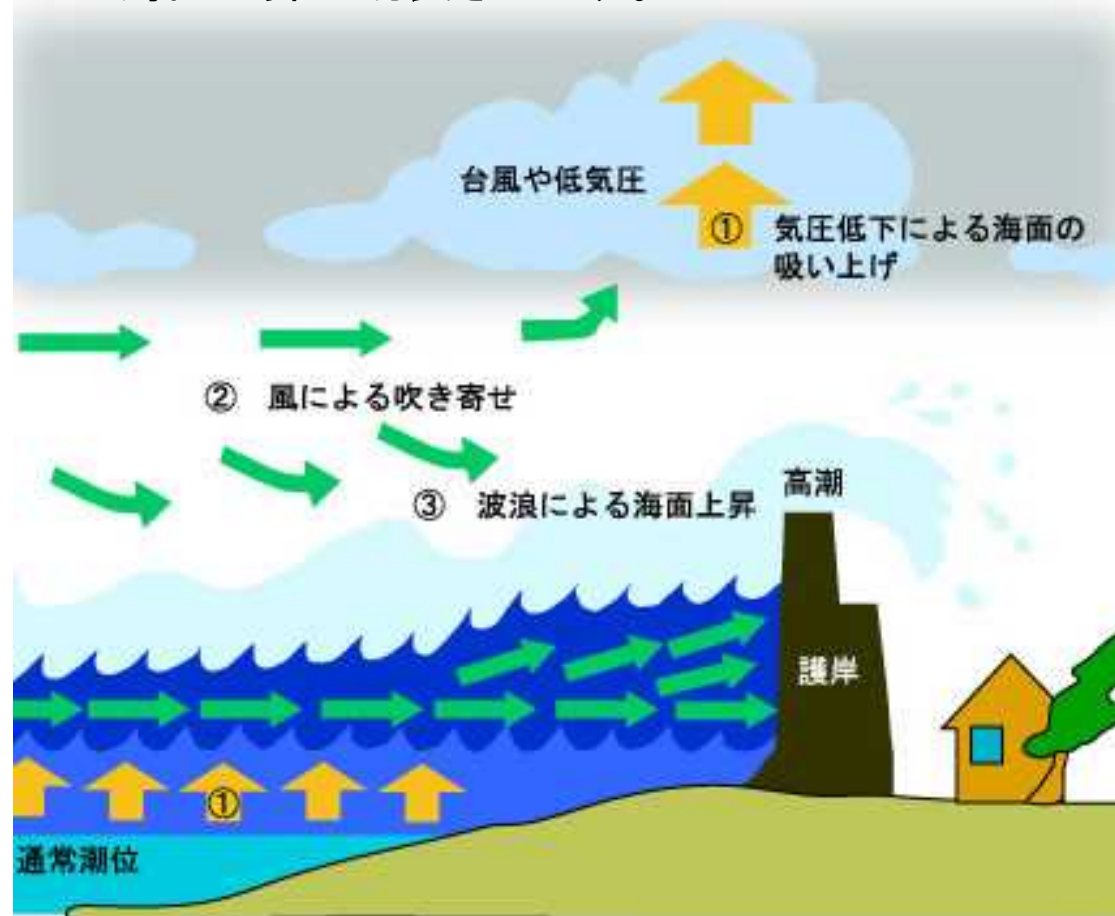
参考資料

台風により、

- ①気圧低下により海面の上昇
- ②風による吹き寄せ
- ③波浪による海面の上昇

の相乗効果により高潮の可能性が高くなります。

特に台風の進行方向の右側では風も強くなり、海面の上昇が起きやすく、特にV字型の湾では奥に行くほど海面上昇が助長されます。



防災気象情報に用いる 時間細分の用語

天気予報では、1日を3時間ごとに区切って、表現しています。

時間帯	一日の時間細分		
00:00～03:00	未明	午前中	
03:00～06:00	明け方		
06:00～09:00	朝		
09:00～12:00	昼前	午後	日中
12:00～15:00	昼過ぎ		
15:00～18:00	夕方		夜
18:00～21:00	夜のはじめ頃		
21:00～24:00	夜遅く		

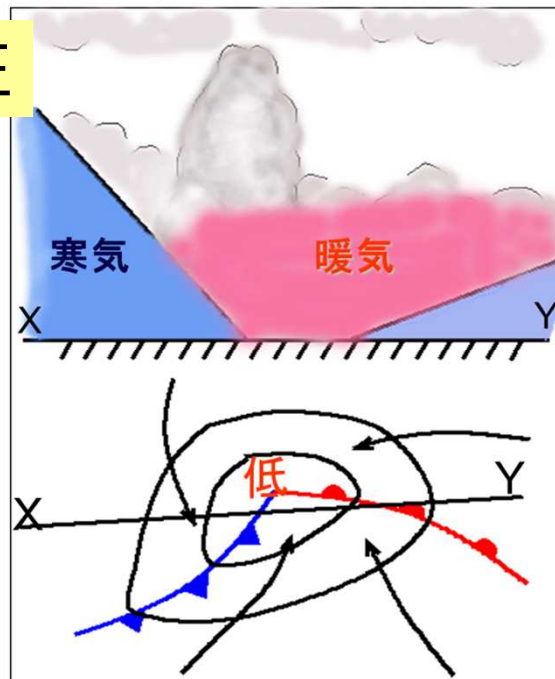
台風と熱帯低気圧との違い

熱帯の海上で発生する低気圧を「熱帯低気圧」と呼びますが、このうち北西太平洋（赤道より北で東経180度より西の領域）または南シナ海に存在し、なおかつ低気圧域内の最大風速（10分間平均）がおよそ17m/s（34ノット、風力8）以上のものを「台風」と呼びます。

温帯低気圧と熱帯低気圧の違い

温帯低気圧

寒気・暖気の
温度差をエネ
ルギーに発
生・発達



熱帯低気圧

熱帯の大量
の暖かく湿っ
た空気をエネ
ルギーに発
生・発達

